



総合運動公園をスタートする参加者

センチュリーライドで望郷ラインを快走

利根沼田地域の美しい風景を楽しみながら望郷ラインを自転車で駆け抜けるイベント「望郷ライン・センチュリーライド2018」が8月26日、村総合運動公園



望郷ラインを疾走

園を発着点に開催されました。

当日は猛暑となったにもかかわらず、県内外から1,065人が参加。コースは、みなかみ町までを往復するロングライド(110km)、川場村までを往復するミドル(78km)、沼田市利根町までを往復するショート(40km)、村内の早おき村までを往復するエンジョイ(18km)の4コースで行われました。

また、会場では赤城高原農業観光協会などによるおもてなしが行われました。

村内各小学校6年生が横浜臨海学校

村内3小学校の6年生68人が8月28日から29日にかけて、横浜臨海学校で横浜市を訪れました。

これは、横浜市が村内に赤城林間学園を開設していることが縁で、横浜市からの招待により毎年行われているもの。同市内での学習を通じ子どもたちの互いの親睦と、昭和村の児童としての自覚を深めることを目的としています。

28日に村内で結団式を行った一行は、バスで横浜市入り。横浜スタジアムでの

横浜ベイスターズ選手との交流や、マリオンシャトル乗船体験、また翌日は、はまぎんこども宇宙科学館の見学を行いました。町横浜での充実した時間を過ごしました。



夕食会であいさつする
葛西まひろさん



解団式では加藤さきさんが代表あいさつ

被災地を

どうもろこしで支援

7月に発生した西日本豪雨の被災地を支援しようと、村はふるさと納税で寄附をいただいた被災者に、返礼品とは別に村特産のどうもろこしを送りました。

この支援の対象は、災害救助法が適用された広島や岡山など11府県349人で、どうもろこしは1人あたり5キロ(3千円相当)。

堤村長は、「昭和村を応援いただいている方々の一助になればありがたい。一日も早い復興と、笑顔あふれる生活が戻ってほしい」と語りました。



どうもろこしの発送作業



水遊びを楽しむ園児たち

赤城西麓土地改良区が園児を招待

赤城西麓土地改良区は、村内各保育園の園児たちを沼田市利根町の同改良区調整池に隣接する親水公園に招待しました。これは村の農業を支える同改良区の農



焼きとうもろこしに舌鼓

業用水に対して、子どもたちにも親しみをもつてもらおうと平成15年から実施しているもの。

8月7日は悪天候のため、子育て保育園では残念ながらDVD鑑賞のみとなりましたが、8月9日は第一・第二保育園の園児たちが同親水公園を訪れ、元気に水遊びを楽しみました。

また、同改良区の職員から焼きとうもろこしや冷やしトマトなどが振る舞われ、園児たちは大喜び。親水公園での楽しいひとときを満喫しました。

故諸田義幸さんに叙勲 受章を受け村に寄附

去る4月13日に逝去された、諸田義幸さん(入沢)の生前の功績をたたえ瑞寶章(ずいほうしょう)が贈られました。

諸田さんは長年にわたり、郵政事業に貢献されたほか、村文化協会や介護予防サポーターなど、地域のために活動されました。

また、このたび諸田さんの妻の兼子さんが叙勲の受章を受け、生前の御厚情に対する謝意を表し、村へご寄附をされました。長男の浩志さんは、「父が村にお世話になり今日があるということ、生まれ育った村のために力になれば」と思いを語りました。

シニアカフェで古典落語を満喫する

村ヘルスメイト主催の第1回シニア・カフェが8月25日、林恭子さん宅(生越)で開かれ、地域の人々が集いました。また、このイベントに先立ち、7回目となる「古民家で古典落語を聴く会」も同宅で開催され、落語家の三遊亭道楽さんによる名作古典落語が披露されました。

今回、会場を提供した林さん宅は、かつての養蚕農家の雰囲気体験できるよう改築された古民家。参加者は、ヘルスメイトの皆さんが用意した、手作りの飲み物や、村で収穫された野菜を使った軽



話芸で魅了した三遊亭道楽さん

食を食べながら交流を楽しみました。参加した宮田ヨウさん(生越)は、「こういった場に集まるのは楽しいです。ありがたい催しです」と話していました。



大盛況だったシニア・カフェ



妻の兼子さんと
長男の浩志さん